

佳作

努力の積み重ねが今の自分

岐阜県 多治見西高等学校一年 山本 恋花

幼稚園にかよっていたころから、すぐく仲の良い友達がいます。その子とは、性格が似ていて息が合えば盛り上がるし、息が合わないとき大きなけんかになってしまいます。私は自分にあまいところがあり、くじけてしまったり、物事を最後までやらなかったりします。自分でもどうにかしたいという気持ちはあったけれど、なかなか直すことができませんでした。

中学生になって、新たな一歩をふみ出すためにソフトボール部に入部しました。暑い時も寒い時も弱音をはかずに三年間やりとおすことができました。でも、プラスになにかをすることはあまりなく、もっと努力できる人になりたいと思いました。そんな時、幼稚園のころから仲が良かった子と会うことになりました。

「久しぶり。」

あいさつから始まり、三秒後からは今までずっと近くで過ごしてきたかのように会話がはずみ、まるで私たちの口から音符がでるような感じで会話していました。何年

たっても性格は似ていて、共感し合えることがたくさんありました。何もかも一緒だと思っていました。だけど、その子は自分というものをしっかりとっていて、とても努力家になっていました。

「課題を最後の方までためて、あわててやる人の気持ちがよく分らない。やることをためてもいいことないのに。」

と言っていました。私は、この言葉が正しいと思っていながらも共感することができず、ただ口をひらいて話を聞くしかありませんでした。私は、頭の中で勝手に性格がとても似ているから、考え方も同じだと思いこんでしまっていました。私は、計画性がなく、長期休暇の後半にやらなくてはいけないことをやります。

「今年こそ、早く終わらせる」と気合いをいれても実行することができません。弱音ばかり言っていた私に、友だちはある話をしてくれました。それは高校選択の話でした。

勉強するのが苦手で、長時間いすに座わるのも嫌だったみたいです。すぐ、テレビを見てしまったり、スマートフォンで遊んでしまうことがあったとききました。でも、ある日突然思ったことがあります。「この高校には、今のままで入学できる。でもこのままでいいのかな」そう思った友だちは、その日から勉強するときは、スマートフォンを電源をきって、やることをはじめに決

した友だちでした。

めて勉強に取り組みつづけたと言いました。少しづつだけ、達成感が生まれ、頑張ることで自分が好きになっていったから、難しい高校を受験し、合格を勝ち取ったようです。

「努力って実らないようにみえて、案外実るものだよ。

もし、実らないと思うのなら、それはまだ努力がたりないのかもよ。」

友だちのこの言葉が心にささりました。

私は、努力ってすごく難しいことだと思います。こつこつとつづけても、実るまでには時間がかかることもあります。三年間、私はソフトボール部のキャプテンをとめて、仲間とぶつかることや、試合の進行の課題などで悩んだこともありました。でも、昨日できなかったことを今日やってみたり、仲間の意見に耳をかたむけてみたりして、三年間つとめることができました。これは、三年間少しづつ努力していたと私はいえると思います。考え方をちょっと変えてみるのも努力の一つだと分かりました。大きな目標だけみても、そこにたどりつくためにどうしたらいいのか分かりません。だから、小さなことをつづけることを私はしていきたいです。やりたいことよりやるといいことをいつも忘れずに努力していくと決めました。

「なんとかなる」

そう思っていた私を変えてくれたのは、十年ぶりに再会